



The Y's MEN's CLUB of

もりおか



<VOL97 2016.2>

もりおかクラブ事務所：〒020-0804 盛岡市本町通3丁目1-1 Tel 019-623-1575 盛岡YMCA内  
盛岡YMCA HP <http://www.ymcajapan.org/morioka/> 検索エンジンワード「盛岡YMCA」

「主題」

国際会長 Wichian Boonmapajorn  
アジア地域会長 Edward K.W.Ong  
東日本区理事 渡辺 隆  
北東部長 中川 典幸  
もりおかクラブ会長 大関 靖二

「信念のあるミッション」  
「愛をもって奉仕しよう」  
「原点に立って、未来へステップ」  
「今と原点を融合して未来へ」  
「明るく、楽しく、いきいきと、生かそう経験、感謝の心で」

今月の聖句 マタイによる福音書18章5節

「私の名のためにこのような一人の子供を受け入れる者は、私を受け入れるのである。」

会長 大関 靖二  
副会長 井上 修三  
書記 濱塚 有史  
会計 大関 靖二  
担当主事 小川 嘉文  
メネット 井上 優子

平成28年3月例会のご案内  
日時 平成28年3月12日(第2土曜日) 18時30分  
場所 きのえね 会費2,000円  
卓話 調整中  
第二例会 平成28年3月18日(第3金曜日) 18時30分  
場所 そばDe10割

大関会長巻頭挨拶



大関会長

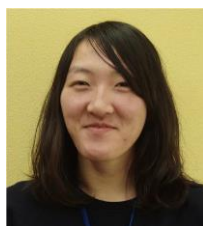
皆さんこんにちは、今年の冬は雪が少なく大助かりです、しかし山に雪が少ないと水不足が心配になりますね。3月はクラブとしての行事がたくさんあります。2日～19日、盛岡YMCAの武田悠リーダー(ゴリナ)がインドでの研修に行ってきます。2月例会時にゴリナから研修への意気込みをお話してもらい、帰国後に改めて報告会をしてもらう事にしました。たのしみです。

3月5日から6日にかけて、次期会長・部役員研修会が御殿場の東山荘で開催されます。次期北東部部長の長岡さん、他2名が参加してきます。3月11日には宮古のボランティア活動でお世話になっている宮古教会の献堂式が執り行われます。クラブからは有志が参加してきます。3月30日には西日本区の西宮クラブのメネットの方々7名が被災地応援ツアー(3月28日～31日)の途中、盛岡に来てくれます。西宮クラブの方たちの被災地にかける思いには頭が下がります。皆様と色々とお話しを

交流を深めると共にお礼を申し上げたいと思っております。多くのメンバーが参加して歓迎しましょう。少し時間がありますが、6月4日～5日に第19回東日本区大会が長野市にて行われます。現在のところ6名の出席を予定していますが、出席ご希望の方は大関までご連絡ください。我々は第16回大会を開催しましたが、早くも3年が経ちます、つい昨日の事のように思い出されます。最後に寒さが厳しき折、体調には気を付けてください。

2月第一例会のご報告

平成28年2月13日、きのえね本店にて、第一例会を行いました。大関、長岡、井上、井上優子、三上、濱塚、中原、三田、小川(敬称を省略) ゲスト武田悠(ゴリナリーダー)。今年も早、2回



武田悠(ゴリナ)さん

目の例会です。今回は、ゴリナがインドのYMCA 研修会に参加するということで、激励とにこにこによる旅費の一部補てんがメインになりました。ゴリナは、大学を休学してまでYMCAのボランティア活動にはまっています。初めて会った時から「この子はなにか違う。」と感じていましたが、ここに

来てやっぱりそうですねという思いが募ります。目の輝きや、YMCAでの行動を見ているとよく解ります。どうですか、みなさん私の一押しゴリナは、素敵人間です。インドの研修を思いっきり楽しんできてください。そしてお土産話の報告を待っています。今年の活動もいよいよ本格的になってきました。大関会長の音頭とりにより、行動予定がめじろ押しです。まずは3月の次期部長会長研修会、西宮クラブメネットとの交流、横浜つづきクラブ10周年記念例会、さあ行きましょう。どんどん行きましょう。

2月24日は、YMCA ピンクシャツデーです。いじめのない世界を作ろうとカナダで始まった活動が全世界に広まったという事だそうです。私が子供の頃はグループの上級生が各グループを統率して、良いことも悪いこともしていました。仲間外れやいじ

めはなかったような、でも気づかずににかしらやっていたのかな？今は、自殺という最悪な事態まで起こっています。「人間が人間をいじめる」ありえない事でしょう。大人は子供に教え続けねばなりません。この活動に賛同して「いじめ撲滅」を目指していきましょう。



ゴリナ～楽しんでこいよ。気をつけてな～

### 宮古通信 「おーいカツオ！」

「宮古市内のスーパーで何人かの小学生から大声で「おーいカツオ！」呼びかけられました。」嬉しそうに話してくれるのは、山崎直人君(宮古商業高校2年)だ。リーダーネームは「カツオ」。別に深い意味はない。たまたま、2014年12月のスキーリーダートレーニングで同室だった大学生リーダーが「マスオ」だったので、「じゃあ、お前はカツオ」ということでこの名前が付いた。(ちなみに、宮古には、ワカメという高校生リーダーもいる。)



山崎直人君(かつおリーダー)

最初、会った時はかったるい雰囲気全開。「この子は、ボランティアにはこないだろうな」と思っていたら、ところがどっこいトレーニングに参加した宮古の高校生15名の中でただ一人1月のスキーキャンプにも参加。2月の野外活動で再開した時は、別人のように変わっていた。変わったというより、最初は恥ずかしくて、自分を出すのを躊躇していたのかも知れない。それからと

最初、会った時はかったるい雰囲気全開。「この子は、ボランティアにはこないだろうな」と思っていたら、ところがどっこいトレーニングに参加した宮古の高校生15名の中でただ一人1月の

スキーキャンプにも参加。2月の野外活動で再開した時は、別人のように変わっていた。変わったというより、最初は恥ずかしくて、自分を出すのを躊躇していたのかも知れない。それからと

いうもの、ありとあらゆる活動に参加してくれている。夏のキャンプでは、朝から晩まで一日中子どもたちと野球をして過ごした。宮古小学校でのミニコンサートでは、立教大学Yのメンバーとひたすら焼きそばを焼いて参加者にふるまった。11月には、横浜YMCAの「YMCA～とつか祭り」に参加して宮古物産店のお手伝いや、幼児スイミングクラスで指導体験も経験した。後日横浜Yから送られてきた写真を見てびっくりした。それは、子供に寄り添う中で、楽しさも辛さも経験したベテラン・リーダーの表情だった。

震災の時小学6年生だったカツオは、あまり震災のことは語りたがらない。もっぱらの話題は、「車」と「就職」だ。でも、最近ポツリポツリと当時のことを教えてくれる。先週も、仮設住宅の餅つきに参加してくれた。地元の話で、おじいちゃん、おばあちゃんとの会話も弾む。いまや、宮古ボランティアセンターにとってなくてはならない存在だ。子供たちはもちろん、山の会をはじめとした社会人のボランティア、大学生リーダー、学生YMCAのメンバー、横浜YMCAのスタッフなど、この1年間での様々の出会いを通して思春期どまん中のカツオ君の中で、なんか「いい感じ」の化学反応がおきているのかも知れない。



# 「ズリテン盛岡DAON」



## もりおかクラブの状況報告

2月の出席率	9/12	66 %	ゲスト1名	ビジター2名		
メーキャップ	1	名		2月切手	0 g	累計 145 g
2月のにこにこ	44,000	円	累計 0 円	2月プルタブ	130 g	累計 4,280 g
2月 石鹸	0	円	累計 7,179 円	りんご	11,000 円	累計 円
2月震災募金	0	円	累計 0 円	ファンド合計	20,659 円	

会費の納入をお願いいたします。岩手銀行 松園支店(店番号 082)普通口座 2145674

もりおかワイズメンズクラブ 会長兼会計 大関 靖二

2月のハッピーバースデー 全国のワイズメン、ウイメンの方々、お誕生日おめでとうございます。



## 東日本大震災から5年「忘れてたまるか」アーカイブス

3月11日が近づいて来ました、あの忌まわしい大震災から5年が経とうとしています。地震の後に襲ってくる津波から命を守るために、「津波てんでんこ」を後世に伝えるために、全優石が力を貸してくれた、石碑を振り返ってみましょう。

### 命の復興計画「全優石」全国優良石材店企画

## 全優石津波記憶石プロジェクト Zenyuseki Memorial Stone of the Tsunami Project

### 2012年10月ブリテン掲載

今回の東新部会に出席して、素敵な企画を教えてくださいました。城井廣邦さんが中心となって被災地に慰霊碑を建てて後世まで2011年3月11日の東日本大震災の記憶と、亡くなられた方々の鎮魂、これからまたやってくる津波への心構えを刻んだ石碑を建てて行こうというものでした。第一号が、2011年12月9日に釜石市鶴住居(うのすまい)の宝来館前の松林に建ちました。続いて第二号が気仙沼市小泉地区に建っております。こんな雄大なプロジェクトが進んでいたとは、岩手で暮らしているが知らなかった事を恥ずかしく思います。大いに感謝するとともに、早速鶴住居の記念碑を見学してきました

忘れてはならない、18,915の命  
我々は二度とこのような犠牲が起こらない  
事を心から願う  
亡くなられた方々の魂を慰め、  
事実と教訓を石に刻み後世に伝えていくことを  
我々の使命と考える、、、1000年先まで。

プロジェクトからのメッセージです。



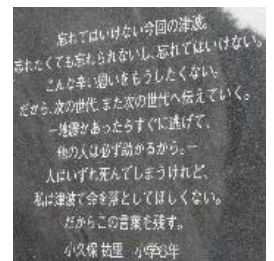
この鶴住居宝来館は津波の被害を受けてしばらく休館しましたが、いち早く営業を再開しました。女将さんや関係者の努力に敬意を表します。復興に携わる方々の拠点として宿を提供してくれています。宝来館の女将さんは地域のために復興に尽力くださったお一人です。

### 2013年1月ブリテン掲載

全優石提供津波記憶石プロジェクトは第三号が完成しました。場所は、岩手県釜石市唐丹町(とうにちょう)、岩手県では同鶴住居町(うのすまいちょう)に続く2つめになります。唐丹町は

10mある防波堤を軽々越える大津波に旧市街地を中心に甚大な被害が発生しました。明治、昭和の大津波の教訓を生かして人的な被害は過去の被害に比べれば少ないとは言ったものの、大勢の犠牲者を出してしまいました。ここの記憶石は、将来のある小学生、中学生を中心に、語り繋ぐメッセージを石碑に彫り、大人になっても、年をとっても子子孫孫に「津波への対応を絶対忘れない。」という確かな意思を伝えたいという気持ちが込められています。何回も書いてきましたが、「津波てんでんこ」は石が有っても無くても各地域で受け継いでいます。教訓を石に刻んで絶対忘れないという事が大事でしょう。だって、「ここより下に家を建てて暮らしてはいけない」という教えは、多くの地域で、完成した防波堤を過信したため忘れられてしまっていました。私のしる限りでは、この教えを守って生活をしていたのは吉浜湾だけです。津波は次も絶対来ます。三陸だけではなく、報道されているように、西日本の太平洋沿岸にもやって来るといいます。岩手県の「津波てんでんこ」の教えはぜひ全国に広めていかねばなりません。全優石の活動はこの考えの一助になると共感しております。

石に刻まれたメッセージのいくつかをご紹介します。  
「忘れてはいけない今回の津波。忘れてたくても忘れられないし、忘れてはいけない。こんな辛い思いをもうしたくない。だから、次の世代、また次の世代へ伝えて行く。地震があったらすぐ逃げて、他の人は必ず助かるから。人はいずれ死んでしまうけれど、私は津波で命を落としてほしくない。だからこの言葉を残す。」小学校6年生「わたしが大人になって子どもができれば、その子どもに幼いころから東日本大震災のことや、にげる時は高台にすばやくひなんすることを教えたいです。小学校4年生



### 2013年6月ブリテン掲載

全優石提供「津波記憶石」のご紹介は今回三回目です。大船渡市綾里(りょうり)駅前に建てられた石をごらんください。碑文のメインは「津波てんでんこ。」ここ綾里地区は高さ10mの防波堤がありました。3.11の6日前に1mの津波を観測し、それを私は高台から見えていました。押し返しては返し、何度も繰り返す津波に恐怖を感じました。地元の漁協職員は、「10mまでは大丈夫、今回はなんともない。」と話しておりました。その通りで、なんの被害もありませんでした。しかし、この防波堤が住民の過信を生んでいたのです。過去の津波で、流された地区には家を建てるなという先人の教えに従って、高台に家を建てた人々は今回の津波でも無傷でした、



月日が流れ防波堤が完成し、やがて人々は暮らしに便利な平坦で港に近い土地で暮らし始めました。海の恩恵を受けるため



です。そこへ、今回の大津波。10mの防波堤は何の役にも立ちませんでした。人間が作った防災建築物のなんと無力なことか。先人たちは、「津波でんでんこ。」という教えを残しておりました。年寄りの教

えで、「津波は必ずやってくる、津波の後の復興には若い力が必要だ、年寄りにかまうな、若い力を残せ。」この意味を学校の教師や、若いお父さんが言ったらきっと批判されるでしょう、お年寄りが自ら若者に言い聞かせているから重みがあります。今回の津波記憶石にも、この「津波でんでんこ。」の文字がメインに刻印されています。「忘れてたまるか、3.11」全優石津波記憶石プロジェクトと、私たちワイズメンの意識は同じです。「頑張れ綾里」、津波を忘れるな。「津波でんでんこ。」です。

### 2014年4月ブリテン掲載

三陸鉄道南リアス線に吉浜駅があります。この大船渡市吉浜地区は東日本大震災において「軌跡の集落」と呼ばれています。大津波の襲来を受けても死者1名、流出家屋2軒でした。やはり、先人の教えを忘れ、堤防の内側の農地の近くで暮らしていた

方々でした。多くの住民は「これより下に家を建てて暮らしてはいけない」という先人の教えを守り、高台に住居を構えていたのです。港での作業のためには、かなりの高低差を上り下りしてはいけない不便を日々の暮らしのなかでもあまんじていたのです。港や、堤防は他の地区と同じに完全に破壊されましたが、人と住居は残ったのでした。「軌跡の集落」は日常の生活の中で、いつ襲来するかわからない津波を忘れていなかったということなのでしょう。全優石提供「津波記憶石は」確実に増えていて、ここ吉浜にも建立されました。



宮城の「津波教え石」、この「津波記憶石」、共に思いは同じなのです。「津波で命を落として欲しくない」この一点に思いは行きつきます。多くの方々のご厚意により、これから先、津波から命を守りなさいというメッセージを後世に伝えていかなければなりません。 私たちも命ある限り、、、

津波で命を落としてはいけません。教訓は未来の人たちのためにあるのです。言われている、南海トラフの大地震に備えて、若い力を残すために、大切なお年寄りは津波の来ない地域で生活させてください。若者は「津波でんでんこ」に逃げてください。

### もりおか雪明かりを散策



雪が解けてなくなった歩道に雪のステージ寒さは伝わりません。

2月13日、第一例会の前にもりおかゆき明かりを見てきました。日が落ちた夕方にとる幻想的な明かりにしばしうっとり。きれいでした。が、しかし。大関会長の巻頭語にありましたが、今年の盛岡はちょう暖冬。この日も気温はプラス6° C まで上がり日中にせつかくの雪灯籠や雪像や氷像が解けてしまい、なんだ

かよくわからないものに変身していました。それでも最終日のこの日、親子連れや、カップルが多く訪れており、真冬の盛岡を楽しんでおりました。

市内のあちこちに雪灯籠や雪像を市民の手で作り、飾り、ろうそくを灯して素朴な明かりを楽しむお祭りです。今年で6回目。仙台の光のページェントに比べると、光量や規模は全くかないません。後発のお祭りですし、田舎町盛岡を象徴して、これはこれでいいのではないのでしょうか。電気もあんまり使わないですしね。環境にやさしい？ WWW



歩道を照らす雪灯籠



灯籠といえば日本最古のガス灯籠、盛岡の自慢

### 編集後記

もうすぐあの日から5年です。震災弱者といわれるお年寄りを中心に、仮設住宅の生活が続いております。住宅の集約で仮設から仮設への引っ越し。災害公営住宅は地域のコミュニティを

構築するのが大変。お年寄りのおいどをたたくわけにはいきません。立ち上がれない人々、どうすればいいのでしょうか。ずいぶん町は活気が出てきました、一見悲壮感はありませんが、隠れた弱者がたくさんいる現実。 つらい。

また来月お会いしましょう、長岡。